

地域医療総合支援センターよりお知らせ

日頃より、当院の地域医療連携にご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

2020年7月1日より地域医療連携室は「地域医療総合支援センター」として稼働をはじめました。地域の先生方には、当院を便利にご利用いただけるように、患者さまのご紹介や、検査・治療後の相互連携という点でさらに試行錯誤を重ねながら、よりよい地域医療を共に作っていきたいと思っております。今後とも、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

患者さまのご紹介について

紹介状(診療情報提供書)に、診療・検査ご希望日時・保険情報をご記入の上、下記までFAXしてください。

医師の指定がある場合は、紹介状にご記入ください。入院依頼の場合は、お部屋タイプもご記入ください。

1

診療情報提供書はホームページよりダウンロードいただけます。

当院のホームページのトップページより、

①【医療関係者の方へ】をクリック

②【紹介・診療・検査予約】をクリック

③ご利用手順の中にある右記のボタンをクリックし、PDFを印刷ください。

診療情報提供書

糖尿病患者様専用診療情報提供書

2

FAXにてお返事いたします。

入院依頼および病状等により多少お時間をいただく場合がございます。

3

患者さまへご来院日時に、**紹介状(診療情報提供書)**と**保険証**をご持参下さいますようお願いください。

地域医療総合支援センター

TEL.078-681-6250
FAX.078-686-1802

[月～金曜日] 9:00～18:00 [土曜日] 9:00～17:00 [日・祝日] 休み

編集後記

コロナで始まりコロナで終わる一年でしたが、少し日常の風景を目にするこの頃となりました。5月～6月には院内でクラスターを発生させてしまい、周辺の皆様、そして開業医の先生方に多大なご迷惑をおかけして本当に申し訳ございませんでした。7月以降院内での感染対策をさらに徹底し、入院時には全患者さまのコロナ感染の有無を確認させていただき、現在まで院内発症は認めておりません。発熱外来でのコロナチェックも継続させていただいております。貴先生方で感染確認が必要な患者さまがおられましたら、当院迄連絡いただければ、日中を問わず対応させていただきます。本文中にもありましたが、4月より心臓カテーテル検査、そして治療を当院でも可能となり、循環器疾患にも今まで以上にスピーディーに対応させていただきます。また開業医の先生方の急患患者さまの診療依頼にも、断わることなく急性期病院としての機能を充実させていただきたいと思っております。病院の理念である「地域になくてはならない病院になる」を全職員の合言葉に今後とも尽力させていただきますので、よろしくお願いいたします。



副院長
地域医療総合支援センター センター長
西岡 昭彦 Akihiko Nishioka

兵庫医科大学卒（昭和57年）
・日本外科学会専門医
・日本消化器外科学会認定医
・日本消化器内視鏡学会専門医
・日本内視鏡外科学会技術認定医
・近畿外科学会評議委員
・兵庫医科大学臨床教育教授
・兵庫医科大学第二外科講座非常勤講師
・マンモグラフィー読影認定医



地域医療機関向け広報誌 ジェネラルリンク

GENERALINK

総合病院の総合(GENERAL)と、連携(LINK)を組み合わせた造語になります。私たち神戸百年記念病院は、「地域になくてはならない病院になる」という理念のもと、地域の医療を共に支えるために、相互連携していきたいと強い想いを込めて作成しました。

2022.03
創刊号

内科特集

『専門性を活かした診療体制を強化し 地域に貢献する』

消化器内科 | 循環器内科 | 糖尿病・リウマチ内科(総合内科)



医療法人社団 顕鐘会

神戸百年記念病院

〒652-0855 神戸市兵庫区御崎町1-9-1
https://www.kobe-century-mh.or.jp
TEL.078-681-6111 (代表)



医療法人社団 顕鐘会

神戸百年記念病院



理事長
田中 岳史

日頃より当院の活動にご協力、ご支援賜り、誠に有難うございます。この度、医療機関さま向け広報紙「GENERALINK」を発行させて頂く運びとなりました。

当院は、地域医療機関の密接な連携あってこそ安心、安全な健康社会が成り立つと考え、先生方に信頼され満足される病院であるよう、日々改革を進めてまいりました。現在、専門性のある、経験豊かな医師が続々と参集し、各診療科、各医療センターの高機能化に取り組んでおります。

本誌が、当院のこうした取り組みをご理解頂き日常診療に役立つツールとして、そしてまた先生方との懸け橋になりますよう祈念しております。私共、神戸百年記念病院は先生方に支えられ、地域に根ざす病院として、これからも成長を続けてまいります。ご意見、ご要望などございましたら、何なりと地域医療総合支援センターにお申し付け頂ければ幸いです。今後共、どうぞ宜しくご指導、ご鞭撻の程お願い申し上げます。



院長
朝田 尚宏

日頃から当院の病院運営、活動にご理解、ご協力をいただいている地域の先生方に改めて御礼を申し上げます。

平成から令和に変わる2019年の4月に院長として神戸百年記念病院に着任後、この地域の医療に実際に触れてみよう、と、開業医の先生方にご挨拶をさせていただいた事を今も鮮明に覚えております。今では、数多くの手術をし、忙しく過ごす日々が続いておりますが、これも地域の先生方のご支援があってこそ、と深く感謝をしております。

当院は「地域になくてはならない病院になる」という理念のもと、地域の中核病院として199の病床を有効活用し、設備機器の充実を図り、診療機能も強化してまいりました。まだまだ成長途中であるゆえ、この度創刊します医療機関さま向け広報誌「GENERALINK」を通じ、より当院を便利に、最大限にご活用いただけるような情報を提供してまいります。地域の医療を共に支えるため、地域の先生方からのご指導、ご意見も頂きながら、より強固な連携体制を築いていけるよう努力をしております。今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。



より地域に貢献できる内科を目指して

内科統括部長 鈴木秀治 Shuji Suzuki

当院は地域の皆様に必要とされる病院を目指していますが、内科は2021年4月以降、7名の常勤医が加わりました。これにより従来以上に広い領域について手厚い対応が可能となり、先進医療にも力を注いでいます。

まず外来は月曜から金曜の平日については、総合内科、消化器内科、循環器内科の3診体制で、今まで以上に充実した医療提供が出来るようになりました。さらに昨年10月からは患者さまの症候に特化した便秘外来、胸痛外来をオープンしています。症候のみで判然としない症例の鑑別やコントロール不良の症例の治療にお気軽にご利用ください。連携室から受診予約して頂けます。本年1月からは限定的ながら緊急内視鏡に対応するためのオンコール体制がスタートしました。今まで以上に速やかな内視鏡検査、治療が可能となっています。

入院については、昨年10月からは糖尿病、高血圧症、心不全の直接教育入院を開始しました。生活習慣病や心不全はしばしば在宅でのコントロールが難しく、早めの教育入院が予後改善に有効です。これらの入院について、今まではまず外来受診をして頂いておりましたが、患者さまの利便性を図るため、かかりつけ医様から直接入院予約をとって頂き、外来を通さず入院して頂けるシステムを作りました。普段の患者さまの診療のオプションとしてご利用して頂ければ幸いです。もちろん従来同様、通常の検査、治療入院に加え、地域包括ケア病棟でのレスパイト入院もお受けしています。

本年4月以降は心臓発作への対応をするための体制を準備しており、さらに腎臓疾患への対応も充実する予定です。医師のみならず、医療技術部スタッフも増員、充実してきました。今まで以上に、当院内科を身近にご利用ください。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

消化器内科

消化器内科として

近年当院では消化器内科医が不足しており、十分に消化器内科領域の診療を行うことができておりませんでした。しかし2020年7月以降6名の消化器内科医が入职し、日本消化器病学会指導医が1名、日本消化器内視鏡学会指導医が1名、日本消化器病学会専門医が4名、日本消化器内視鏡学会専門医が1名、日本肝臓学会肝臓専門医が2名となり、消化管・肝・胆・膵の消化器内科領域全般の診断・治療が行えるようになりました。

地域の皆様のお役に立てるよう努力して参りますのでよろしくお願いいたします。



内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)

消化管癌の内視鏡的切除術である ESD が、食道・胃・大腸すべての臓器において、巨大病変など困難例も含めて施行することができるようになりました。

内視鏡的逆行性膵胆管造影 (ERCP)

ERCP を行い、胆管・膵管の精査、総胆管結石の除去術やステント留置術を行うことができます。これにより胆管炎や閉塞性黄疸の精査・加療ができるようになりました。

肝疾患診療

肝臓専門医が入职し、肝障害の精査目的の肝生検や B 型肝炎・C 型肝炎の抗ウイルス療法など、肝疾患診療を専門的に行えるようになりました。

スタッフ構成



内視鏡センター長 森主 達夫

Tatsuo Morinushi

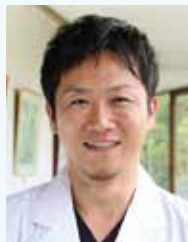
東京医科歯科大学卒（平成 19 年）
・日本消化器病学会専門医・指導医
・日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
消化器内科診療・内視鏡治療を指導医として全般的に行うことができます。特に消化管の内視鏡診断・治療が専門で、内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) は全臓器において、困難例を含めて行うことができます。



内科部長 福島 豊実

Toyomi Fukushima

米国カリフォルニア州ロサンゼルス大学卒業 (MD)（平成元年）
・日本消化器病学会専門医
・日本消化器内視鏡学会専門医
・日本肝臓学会肝臓専門医
・日本プライマリ・ケア連合学会指導医
消化器内科だけでなく内科全般の診療も行います。米国消化器内科専門医資格も持っており、英語での診療も可能です。



山本 修平

Shuhei Yamamoto

大阪医科大学卒（平成 24 年）
・日本消化器病学会専門医
消化器内科全般の診療を行います。特に肝疾患の診療を得意としています。



森澤 俊英

Toshihide Morisawa

関西医科大学医学卒（平成 21 年）
・日本プライマリ・ケア連合学会指導医
消化器内科だけでなく内科全般の診療や心療内科の診療も行うことができます。



高島 真理

Mari Takashima

鳥取大学卒（平成 13 年）
・日本消化器病学会専門医
・日本肝臓学会肝臓専門医
消化器内科全般の診療を行います。特に肝臓専門医であり、肝機能障害の診断や B 型肝炎・C 型肝炎の抗ウイルス療法、肝生検や腹部エコーを行うことができます。



大石 崇史

Takashi Ohishi

帝京大学医学部卒（平成 21 年）
・日本消化器病学会専門医
内視鏡検査を担当しています。

内視鏡検査・治療

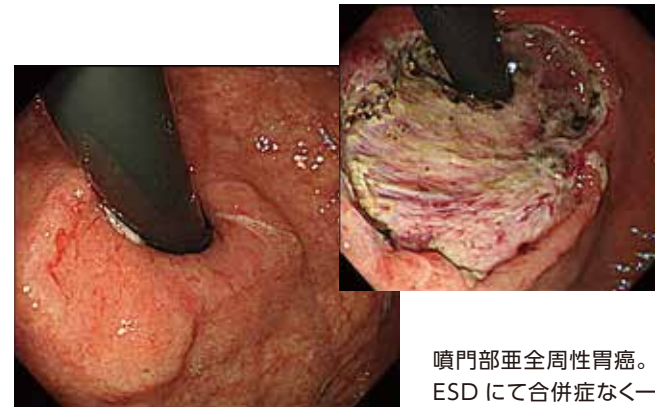
当院では内視鏡的大腸ポリープ切除術を世界で初めて行った新谷弘実先生を名誉顧問として招聘し、大腸内視鏡検査を中心に積極的に内視鏡検査・治療を行って参りました。このたび消化器内科医が多数入职したのを機に、2020年10月に内視鏡センターを立ち上げ、これまでの実績・経験を元に、消化器内科診療の中でも特に内視鏡検査・治療に力をいれています。

内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)

特に力を入れているのが内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) です。ESD は早期の消化管（食道・胃・大腸）の癌もしくは前癌病変を内視鏡的に切除する術式で、従来の方法より大きく正確に切除できるのが特徴です。また、内視鏡的に切除できれば臓器が温存され治療後に後遺症がでることはありません。

当院では最先端病院で600例以上の経験がある医師もおり、食道・胃・大腸すべての臓器で、巨大病変や潰瘍瘢痕上の病変など治療が困難な症例も含め、大学病院やがんセンターと同レベルの治療を行うことができます。

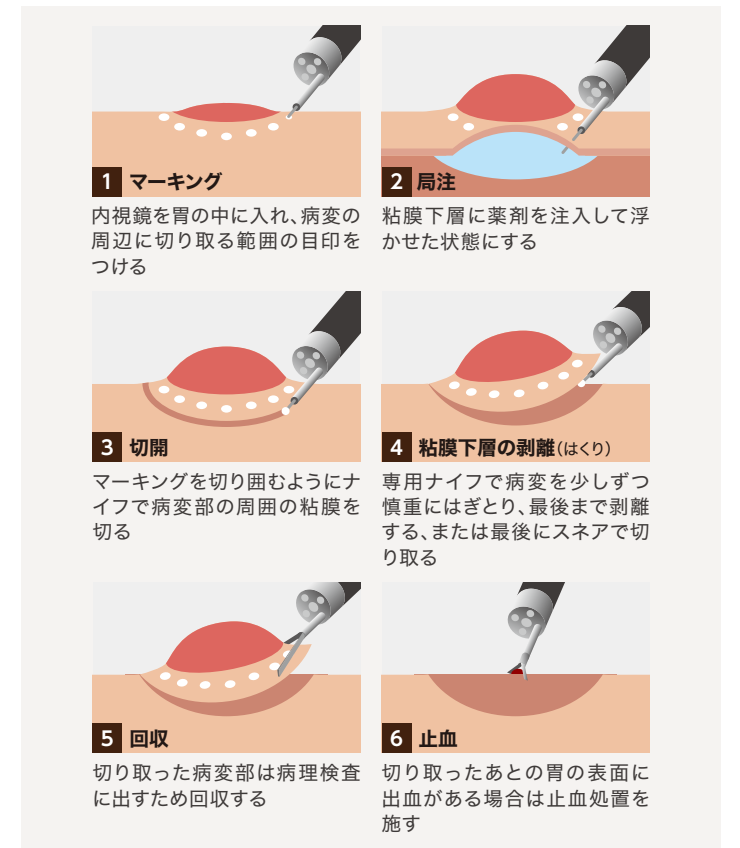
また困難例を含めても一括切除率は98%以上、技術が反映される穿孔率も1%未満であり、安全で確実な治療をここがけております。



噴門部垂全周性胃癌。アプローチが困難で広範囲な難易度が高い病変でしたが、ESD にて合併症なく一括切除し、病理結果は粘膜内癌で治癒切除でした。

診療実績 2021 年

	件数
上部内視鏡検査	7600件
大腸内視鏡検査	1613件
大腸ポリープ切除術	415件
内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	55件
内視鏡的膵胆管造影(ERCP)	54件



	件数
内視鏡的止血術(上部)	35件
内視鏡的止血術(下部)	6件
内視鏡的胃瘻造設術	30件
消化管ステント	6件
経皮経肝胆道・胆嚢ドレナージ (PTCD/PTGBD/PTGBA)	7件

循環器内科

● 循環器センターのご案内

高血圧症と心不全

循環器疾患と大血管疾患は、依然として我が国における死因の第二位を占めており、特に高齢者の診療において循環器疾患は重要な問題です。これらに対する丁寧な治療は患者さまの予後改善に重要と考えており、今後も当科の責務の一つです。お困りの症例があれば、ぜひお気軽に当センターにご相談ください。現在外来では循環器疾患の検査として ABI、運動負荷心電図（トレッドミル、エルゴメーター）、心エコー、ホルター心電図、冠動脈造影 CT、心筋（負荷）シンチグラム、心臓 MRI が可能で、ほとんどの疾患に対応できます。また軽症の心不全症例であれば、心不全直接入院もご利用ください。入院前後で外来受診して頂く必要がなく、患者さまの利便性を向上させました。当院地域連携室を通して予約できます。お気軽にお問い合わせください。一方で、治療により病状が安定した患者さまについてはかかりつけ医制度を推進しています。外来加療について先生方をお願いすることがあると思います。大変お手数ですが、何卒よろしくお願いいたします。

先進医療

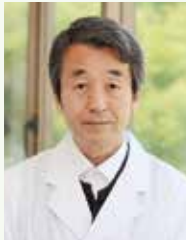
当院では昨年2月に念願であった心血管専用の最新のアンギオ装置を導入しました。すでに冠動脈造影を含む諸検査に加え、冠動脈の治療としてステント植え込み、アテレクトミーを実施し、実績を重ねています。また末梢動脈の形



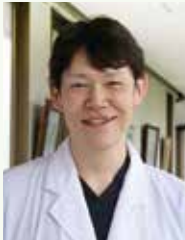
成術、下大静脈フィルター留置等も行なっています。従来からの恒久的ペースメーカー植え込みも継続しています。さらに10月からは専門医による不整脈専門外来をスタートさせ、心房細動等の不整脈に対するアブレーション（カテーテル焼却術）治療も開始しました。多くの治療を幅広く行うことができるようになり、よりいっそう地域の皆様に貢献できると考えています。本年4月からは循環器センター常勤医師を増員し、緊急の治療が必要な症例についても対応できる体制を構築する予定です。同時に脳血管のカテーテル治療、腎疾患についても専門的な診療、治療をスタートする見込みです。医師のみならず、コメディカルの技量も向上しており、職員一同一丸となって、循環器疾患に取り組んでいく所存です。

ご紹介頂いた患者さまに速やかに適切な検査を施行し、最善の治療を行い、その内容をご報告するよう心がけます。先生方とともに、より良い地域医療を形成していくよう邁進して参りますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

スタッフ構成



内科統括部長
循環器病センターセンター長
鈴木 秀治
Shuji Suzuki
大阪医科大学卒（平成元年）
・日本内科学会認定内科医
・日本循環器学会認定循環器専門医
・臨床研修指導医
・博士（医学）



循環器病センター
副センター長
水口 幸生
Yukio Mizuguchi
香川大学卒（平成14年）
・日本内科学会総合内科専門医
・日本循環器学会専門医
・日本超音波医学会専門医
・日本心血管インターベンション学会専門医
・心臓リハビリテーション指導士



久保 信也
Shinya Kubo
鹿児島大学卒（平成10年）
[専門・得意分野]
・内科一般・循環器

診療実績 2021年3月～12月

		件数
PCI	ステント留置術	36件
	冠動脈形成術	4件
CAG	左心カテ	114件
EVT	四肢の血管拡張術・血栓除去術	6件
アブレーション	AF	1件
その他		18件

糖尿病・リウマチ内科（総合内科）

● 患者さまのニーズに応える取り組み

若者から超高齢者まで

糖尿病・内分泌内科は2021年4月より新しく佐藤医師が着任され、専門医3名で月曜日から土曜日まで毎日診療できる体制としております。看護部、薬剤部、栄養科やリハビリテーション科、検査科とともにチーム医療の充実をはかり、また眼科や循環器内科の支援を得て合併症の早期発見、予防にも努めております。

心の理解から行動変容へ

「心の理解から行動変容へ」をテーマに14日間のクリティカルパスで糖尿病教育入院に取り組んでいます。入院時にPAID、変化ステージ、SDS、エゴグラムを実施し、患者さまの糖尿病に対する負担感情や性格をある程度把握した上で、入院前の生活を一緒に振り返り退院後の生活目標を設定するプログラムです。さらに退院後3ヶ月、6ヶ月、12ヶ月後に外来で看護師、栄養士により療養指導を重ね行動変容の定着を目指しています。時間的余裕が無い方には48時間、5日間パスでも対応しております。

メタボからサルコペニア・フレイルへ

糖尿病患者の高齢化に伴い、メタボリック症候群よりサルコペニア・フレイルが問題となる現状を踏まえて、75歳以上の高齢者では入院時に認知症の有無や筋肉量、日常生活動作の程度（DASC-21）を評価し、カテゴリー別の3種類のクリティカルパスで個々に応じた指導をしております。

そして訪問診療まで

フレイルや認知症の進行、合併症等により通院が困難となった患者さまに対して、岩崎医師を中心に訪問診療を行っています。特にコントロール不安定でインスリン治療を必要とする高齢者では、食生活や薬剤管理ができていないことも多く、訪問で生活状況を把握しての指導介入により効果を上げています。

当科は Kobe DM net に参加しています。チェックのみの簡単な診療情報提供書をいただければ幸いです。速やかに対応させていただきますのでよろしくお願いいたします。

リウマチ・膠原病診療

2021年4月より新しく加藤医師が着任されました。診断に難渋することが多い膠原病関連疾患をガイドラインに基づいて的確に診断・治療しています。また関節エコーをリウマチ関連疾患の診断や活動性の評価に積極利用しており、高齢発症の関節リウマチとリウマチ性多発筋痛症との鑑別にも役立っています。関節リウマチの治療は MTX を基本とし、効果不十分な場合に他の抗リウマチ薬の併用や生物製剤の導入を検討します。また、膠原病や血管炎の治療も病態に応じてステロイド剤や種々の免疫抑制剤で治療しています。

血液疾患診療

神戸大学松岡教授の指導を受けて、前田医師を中心に悪性リンパ腫や MDS 等の診療を行っています。関節リウマチでの MTX 関連リンパ増殖性疾患も多く経験します。

スタッフ構成



副院長 内科部長
黒木 康雄
Yasuo Kuroki
神戸大学卒（昭和60年）
・日本内科学会総合内科専門医
・日本糖尿病学会専門医・研修指導医
・日本リウマチ学会専門医・指導医
・日本リウマチ学会評議員
・日本骨粗鬆症学会認定医



岩崎 真也
Masaya Iwasaki
山口大学卒（平成20年）
[専門・得意分野]
・糖尿病・内分泌



佐藤 洋幸
Hiroyuki Sato
弘前大学卒（平成25年）
・日本内科学会認定内科医
・日本糖尿病学会専門医
[専門・得意分野]
・糖尿病・内分泌



加藤 朱利
Akari Kato
群馬大学卒（平成27年）
・日本内科学会認定内科医
[専門・得意分野]
・リウマチ・膠原病



前田 彰宏
Akihiro Maeta
鳥取大学卒（平成17年）
[専門・得意分野]
・内科一般・血液